

独立自尊の精神を現代に受け継いで

本校は、明治11年に創設され今年で140年をむかえた日本最古の伝統を受け継ぐ商業高等学校です。当時の兵庫県令森岡昌純氏は“ミナト神戸”繁栄への道は、商いを盛んにすることだと百年の大計をたて、慶應義塾の福沢諭吉先生に「ぜひあなたの力を貸して欲しい」と頼み込み全面的な支援を得て、誕生した神戸商業講習所が本校の前身です。当時の教育方針も、“一日習えば、一日だけの用をなす”を目標にかかげ、日常の取引にすぐ役立つ実践教育に徹していました。生徒は紺の木綿に角帯姿、前だれをかけ、先生も和服に前だれをつけて教壇に立ち、実習訓練を厳しく行い、おおいに商道精神を吹き込みました。一般の学問も英語、経済、法律と幅広く、特に対外貿易の振興のための英語を特別厳しく指導し「外国人と話せる生徒」の育成に力を注ぎました。

年は移り、人は変わり、さらに時代の変遷があるといえども、創始以来の精神は、今なお脈々と生きています。商業人としての知見と力量を養うことを通して豊かな人格をつくりあげようとする県商の教育は、真の意味での実学の姿を、時代を超えて示し続け、建学の精神は生きた伝統となり幾多の人材を輩出してきました。

知識基盤社会といわれる現代において、グローバル化による社会の多様性、IoTやAIなどの技術革新による生活の質の変化などが教育環境にも影響を及ぼしています。そのような中、伝統の灯を絶やさず今を生きる生徒が、未来を切り拓いていけるよう、新たな資質・能力（コンピテンシー）を基に「商業科」「会計科」「情報科」のそれぞれの学科の特色を通じて、高い志を持ち国際社会に貢献できる次世代リーダーの育成に力を入れています。

「商業科」では、生徒が予測困難な変化を遂げていく社会を精一杯生き、主体的に行動できるよう、会計、情報、経営の基礎を幅広く学習し、「前に踏み出す力」「考え抜く力」など社会人基礎力を磨いています。教育課程は多様で実践的な商業の学びができるように編成、地元企業と連携した商品開発や、百貨店における販売実習、企業訪問、神戸港湾施設訪問などの実学が中心です。

「会計科」では、企業経営の基盤となる経理分野（簿記会計）の技術習得とその生成される情報を把握し解釈して利用するなど将来の起業家を目指しマネジメント力の育成に力を注いでいます。教育課程では簿記、財務会計、管理会計などの会計関連科目が中心。生徒の約8割以上が日商簿記2級を取得、資格を活かして国公立大学などへの進学ができる学科として高い評価を得ています。

「情報科」では、“主体的に考える”が学習に向かう姿勢。最新ICT機器を活用したプログラミングや情報セキュリティなどの専門学習を通じて、変化の激しい時代に、自ら課題を設定し、分析する力などを醸成、国際社会をリードする人材育成に力を注いでいます。国公立大学など進学に対応できる普通教科の学力の向上や情報関連科目での国家資格が取得できるよう教育課程を編成しています。

3学科共通として、英語によるコミュニケーション能力を高めながら、調査・見学・研究・発表などの体験活動を通して、県商生のチャレンジ精神や創造力などを一層高める学習活動を行っています。また、国際的に活躍している諸氏からの講義・講話に加え、英語を母国語とする国の大学生との英語によるディスカッションやプレゼンテーションを実施するほか、長期留学生の受け入れも行っています。加えて、シンガポールや台湾など、高校生との英語を使う交流事業を、機会を捉えて実施しています。

その他、甲南大学経営学部や流通科学大学と連携協定を結び、大学からの講師派遣や大学への訪問授業を行うなど多方面に渡って商業人教育の充実を図っているところです。

これからも、本校生が「独立自尊」の精神を涵養し健全な高校生としてたくましく成長していくよう、地域や保護者、そして卒業生の皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。